

2008 未来教育プロジェクト全国大会 「意志ある学び——未来教育」

去る8月9日、神奈川県横浜市のワークピア横浜にて「未来教育プロジェクト全国大会」が開催された。全国から看護師、看護学生、小、中、高校教諭などが参加し、ポートフォリオを活用した「意思ある学び」を実現する手法について、未来教育プロジェクトの提唱者であり実践の第一人者でもある鈴木敏恵氏が「コンピテンシーを実現するプロジェクト学習」と題して講演を行なった。テーマには、自己成長に不可欠なフレクシオン、FD(ファカルティ・ディベロップメント)、教育者の教育能力向上、学生が意欲的に学び考える授業、が選ばれ参加者による実践例の発表も行なわれた。

講演では、まず未来教育プロジェクト学習自体についての説明を皮切りに、その際に活用するポートフォリオとプロジェクト学習の関係、プロジェクト学習の各段階別に設けられた「基本フェーズ」とそこでの「身につく力」、ポートフォリオの効果と価値、プロジェクト手法による課題発見と課題解決の手順、「未来教育プロジェクト学習」と従来からの「問題基盤型学習」の違い、ポートフォリオの再構築と3つの種類、プロジェクト手法による課題発見と解決の手順などを解説。

鈴木氏によると未来教育プロジェクトとはビジョン(願い)とゴール(他者に役立つ「知の成果」)を明確にして学習をスタートさせ高い成果を上げる手法だという。その特徴としてはゴールへの基本フェーズが存在し、学習者自身がそのフェーズごとに身につく力、成長を意識することで、最終的に学習のゴール=社会のニーズとするといった点が挙げられている。

続いてこの手法上の最大の特徴である「ポートフォリオ」について説明があった。上記のプロジェクト学習と両輪で「意思ある学び」の実現に貢献するこ

の「ポートフォリオ」とは、ゴールへと向かうプロセスで生まれたものや手に入れたものなどの学習の軌跡を一元化したもので、具体的には目標を書いた紙や新聞、インターネットなどのメディアから得た情報から構成されるファイルであり、それ自体が資料の記録や保存にとどまらず、学習者がこれまでしてきたことを未来に活かす機能をもつという。

またこの「ポートフォリオ」には目的別に種類があり、それぞれ「パーソナルポートフォリオ」「テーマポートフォリオ」「ライフポートフォリオ」の3種がある。「パーソナルポートフォリオ」は自己受容や自尊感情、キャリアマネジメントなどを目的とするもので、対応する領域には個性の発見や、進路設計、目標管理、キャリアパスなどがある。「テーマポートフォリオ」はクオリティの高い成果、コンピテンシー獲得を目的とし、対応領域としては一般教科、総合学習、臨床研修、クリニカルラダー、認定看護師などをもつ。最後に「ライフポートフォリオ」は自立、健康管理、セルフマネジメントなどを目的にもち、生活習慣病、チーム医療、在宅看護などに対応可能とのこと。

さらには、課題発見から課題解決ま

でのプロセスとその結果が時系列に収められたポートフォリオがもつフレクシオンの性質を活用することで、ゴールまでの全体を俯瞰しながら戦略的に学習を進めることが可能になり、その結果として思考プロセスの可視化にもポートフォリオは役立つとその効果を述べた。

未来教育プロジェクト学習についての講演が終わると、すでにポートフォリオを活用している学校教諭、看護部などの取り組みが発表された。

島根県立中央病院では数年前からこのポートフォリオを活用し、相当数の蓄積ができている。今では新人教育から研修、そしてプリセプターと新人間の教育ツールとして効果を発揮しているだけでなく、ポートフォリオ採用初年度から続けている看護師が中堅層に入りごく日常的に活用。管理者からの評価の指針にもなっており、これからさらなる活用方法を見つけていくという。

学校教育の現場で成果を上げてきた鈴木氏のこの未来教育プロジェクトが、看護の世界でも成熟してきたことで次にどのような展開を見せるのか、これからが期待されるところである。

●本誌編集室



講演中の鈴木敏恵氏